

～法人合同職員会議

2016年度園内研修発表会特集～

2017. 2. 5

恒例の島田福祉会全園の常勤職員による合同職員会議を行いました。理事長からは次年度の事業計画・職員体制についての説明があり、職員は各園それぞれに今年度の園内年間研修の成果を発表しました。法人の今年度の成果と次年度の抱負をご覧ください。

2017年度法人事業計画その他

5園の研修発表を行った後、各園長からの職員紹介、理事長からの永年勤続表彰、法人次年度体制・次年度事業計画の提示がありました。自園の1年間の学びを検証すること、他の園の学びを共有し、

お久しぶりです！～休憩時間～



自園の運営に

役立てること、次年度から取り組む中長期の課題を認識し、次年度に関して具体的な運営の基本方針を知ること、4月から共に働く仲間の顔を互いに見えただけ覚えること（全員覚えるのは無理ですが、法人職員が全員集まるのはこの1回しかないのが合同職員会の目的です。午後は各園の合同MTの打ち合わせから始まり、各園に戻っての園職員会と、例年ハードスケジュールの1日ですが、様々な学びや刺激を受けた後での各園会議では有益な議論となるようです。

わらべうたの実践



永年勤続表彰

法人内に10年以上勤務していること、一定上の評価を継続して受けてきたことを基準として、今年度も7名の職員が表彰されました。対象者には祝い金とリフレッシュ休暇が付与されますので、次年度は昨年度の表彰者と併せ、日頃運営の中心となっている職員が長期休暇を取ることが多くなりますが、この不在期間が、後に続く職員達の責任感や自負心の芽生えにつながってくれることを期待しています。



法人特別表彰

長年の社会福祉活動への貢献を評価され、12月に東京都知事より表彰を受けた、当法人の高橋恒雄・藤田伍郎両理事に対し、法人からも特別表彰を行いました。両理事の表彰は、当法人が認可を受けてから40年以上、地域福祉のために活動してきたことに対する行政からの評価でもありと考えております。法人の歴史については語られる機会も少ないので、特に勤務年数の少ない職員にとっては、自分が所属する法人の沿革や、地域における役割を考える機会になったようです。



理事会からの花束贈呈

北嶺町第二保育園

「災害に備えて私たちができること」

今年度の北嶺町第二保育園の研修は、防災についてです。開園して2年目の園は、避難訓練の際、子どもたちを安全に避難させ、命を守るにはどうすればよいのかを周知しようということになりました。住宅地にある保育園ですから、近隣や地域の方と協力し合うことも不可欠であると考え、町会で行われる防災訓練にも参加し、周辺の避難経路なども確認することが出来ました。お互いに助け合う環境を作っていくには、積極的に働きかけていくことが大切だと気付かされました。保育園の「どこに何があるのか」「身を守るにはどのような避難体勢がいいのか」子どもたちと一緒に学びました。自分の身は自分で守る。ダンゴムシのポーズもすぐにとることが出来るようになりました。いつ起こるかかわからない災害に対して真剣に考え子どもを守るという大きな使命がある責任を職員全員が自覚した研修となりました。



北嶺町保育園

「わらべうたと伝承遊び」をテーマとし、

①職員の技術向上をはかる ②異年齢交流を活発に行う ③保育園と家庭との繋がりを深める これらをねらいにして取り組みました。



わらべうたを知る職員が少なかったのですが、この取り組みを通して、「わらべうた」の効果や意義を知る第一歩となり、日々の保育の中で、わらべうたを歌う事で子どもとの触れ合いや成長を促すツールとして、保育に取り入れる事ができ、繰り返しわらべうたをうたう事で保育士も習慣となりました。

子どもたちも友だちとたくさん行った事で、何もなくても友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知ったり、年下児に教えて行こう姿が見られるようになりました。

行事や保護者会での披露、冊子の配布など、保護者へのアピールに力を入れた事で、以前よりも興味を持ってもらえ、園での取り組みを知らせることで、家庭でも行ってくれるようになりました。

今後も、年間指導計画にわらべうたを取り込んで、取り組みを継続し、子どもたちが自然に交流出来るように実践し、保護者に向けておたよりにわらべうたを掲載したり、クラスの取り組みを積極的に伝えていきたいと思えます。

大森北六丁目保育園

テーマは「年齢ごとの遊びからの学び」で園内の保育の見直しや確認を行いました。

乳児・幼児・給食に分かれ遊びをテーマを意識した保育をし、記録をとり、それぞれ話し合いました。

子どもにとって自然物と親しむ経験を積むことで発想が豊かになり、遊びの材料として取り入れ、発展させるようになったり、図鑑や科学等の本にも興味を持ち、調べるようになりました。保護者や友だちに伝えることで表現力がつき、自信がついてきました。給食職員が作った玩具は苦手な食べ物を食べるきっかけになりました。職員間では、研修内容について話し合う中で、子どもたちとの関わり方、見守り方などを共通認識し、同じ方向性を持って保育していくことが大事であるか改めて確認できました。



大森駅前保育園

テーマは「自然と保育の実践」。一昨年度から取り組んできた自然とのふれあいから、子どもたちの自発的な遊びを生むような環境設定と、その活動を見守る職員側の認識の共通化という必要からのマニュアルの見直し、この2つを柱に計画を立て、計画以上の成果をあげようと取り組みました。以前に学習・実践を行った自然遊びであっても、職員の入れ替わりなどで曖昧になってしまった内容の確認や、逆に新規入職の職員からの新しい視点でのマニュアルの見直しなど、それぞれの経験年数でなくては見えない部分を互いに補い合い、有意義な研修になりました。



島田保育園

2013年度、2015年度と「保育園における危機管理」をテーマとし園内研修に取り組んできましたが、今年度はこれまでの研修の課題のひとつであった「散歩・戸外遊びの危機管理」をテーマとしました。まずは、保育士、給食、事務職員で4つのグループを作り、グループ討議を中心に『散歩・戸外遊びマニュアル』の見直しを行い、遊具の使い方などについて再検討しました。また、大森警察署と一緒に不審者訓練を行い、その学びをもとに戸外での不審者対応訓練にも取り組みました。全員で研修に取り組む中で、不審者に対する職員の危機意識が高まり、状況を判断する力を高めることや職員間の連携の必要性も感じました。また、年長児には就学に向けて、警察官から防犯の話や聞く機会を作り、昨年度作成した地域の防犯マップを見ながら、子どもSOSの家探しもしました。今後も不審者対応訓練など今年度の取り組みを定期的に続け、職員一人ひとりの力の向上に努めていきたいと思えます。

